

市長記者会見記録

日時：2018年10月2日（火）14時～14時26分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：市政一般

<話題提供>

臨海部ビジョンの実現に向けた海外視察について（臨海部国際戦略本部）

<内容>

《臨海部ビジョンの実現に向けた海外視察について①》

【司会】 ただいまより市長記者会見を始めます。本日は市政一般となっております。

初めに、市長から話題提供といたしまして、臨海部ビジョンの実現に向けた海外視察についてご説明いたします。それでは、市長、よろしくお願いたします。

【市長】 よろしくお願いたします。それでは、臨海部ビジョンの実現に向けた海外視察について、話題提供させていただきます。

本年3月に、本市は「臨海部ビジョン」を策定いたしました。このビジョンは、私も有識者懇談会に加わって議論を重ね、川崎臨海部の30年後の将来像について方向性を示したものでございます。

臨海部ビジョンの実現に向けて、グローバルな観点からさまざまな先進的な取組を視察して、体感し、政策判断に反映する必要があると考えまして、今回、米国ニューヨークとボストンの視察を行うことにいたしました。

両都市では、人、物、情報が行き交いながら、新たな価値を創出している地域としてさまざまな取組が進んでおり、また中心市街地に近接した旧来の臨海部の産業・工業地帯がどのように再生したかという点においても、本市のこれからの臨海部において参考となる事例が多数見受けられます。

本視察によって、産業や人材、文化など、臨海部が持つさまざまな異なる要素を混ぜ合わせ、組み合わせることによって、新しい価値やイノベーションが創出する、国内にも例のない地域をつくっていく、そのような知見が得られることが期待できますことから、こうした知見を活用して臨海部ビジョンを実現してまいりたいと考えております。私からは以上です。

【司会】 ありがとうございます。市政一般とあわせまして質疑応答をお願いいたします。進行につきましては、幹事社様、よろしくお願いたします。

【幹事社】 わかりました。よろしく申し上げます。

まず、この海外視察なんですけれども、先ほどもおっしゃった訪問先の選定理由、具体的に今いただいた資料にも何カ所か挙がっていますけれども、なぜここなのか。そして、実現のためには、やはり海外視察をする必要があるというふうに考えた理由というのは、どこら辺にあるのかということをお教えください。

【市長】 有識者懇談会をやっていく中でも、是非こういったところを視察したいという声は、有識者の皆さんからもいただいておりますし、まさに一緒に視察すべきではないかという話もありました。その中で、有識者の中から、アメリカだけではなくヨーロッパも含めて、川崎にとって参考になる土地はどこかということで、色々なアドバイスをいただいてまいりました。その中で、時間的な制約なども勘案して、最もふさわしいニューヨーク、ボストンに決定したというところでございます。

やはり、私のみならず、市の職員も含めて、これだけグローバルの中での川崎市の位置づけはどういうものかを考えていく中で、なかなか海外に行かないという実態があります。私も、ある意味こういった政策的なことで海外に出るというのは、おそらく3年か4年ぶりぐらいになるんじゃないかと思うぐらい出ていません。あとは、友好都市との関係だけですので、そういった意味においては、もっとより積極的に出ていかなきゃいけないと思うのですが、今回ようやく、実際に、自分の目で見て、そして体感して、そして政策に生かしていくためにも、やはり自らの目で見るということが大事かと思っています。

【幹事社】 すみません、ちょっと細かい話で恐縮なんですけど、海外視察に関する費用というのはトータル幾らぐらいで、これはもう予算計上されているものなのかどうか。

【市長】 今回、私を含め6名で参ります。トータル費用が旅費等含めて850万円です。

【幹事社】 これ、予算は何か別の費目で入っているものを使うのか、それとも補正の対応が必要になったりするものなのか。

【市長】 いえ、補正対応ではないですね。どういう話でしたかね。

【戦略拠点担当課長】 臨海部国際戦略本部でございます。当初予算には計上しておりませんが、各費用等を捻出した中で実施するものでございます。

【市長】 いわゆる流用という形ですかね、予備費なのかな。どういう形。

【戦略拠点担当課長】 流用です。

【市長】 流用ですね。

【幹事社】 850万という金額自体は決して小さくないと思いますし、それを、いわゆる議案の審議を経ないで行かれるからには、相当の緊急性があるんだろうというふうにこちらとしては受け取るんですが、それでもこのタイミングで市長自ら海外に行かなければいけない理由というのを改めてご説明いただけますか。

【市長】 緊急性というか、年度当初から、どこにどのぐらいの期間という、場所も含めて全部が決まっていれば、そういった予算も当初予算で計上すべきものだと思いますが、しかし、こういったものは、やはりなるべくタイミングよくやっていきたいというものがありますので、こういった対応をさせていただきました。

《第4次安倍改造内閣の組閣について》

【幹事社】 わかりました。すみません、もう一点だけ。安倍首相の改造内閣が、もう顔ぶれも、ご存じだとは思いますが、今回の組閣について何かご所感があつたら。

【市長】 ごめんなさい、1時ぐらいの段階の情報であって、閣僚名簿はまだ発表になっていないですね。全体のところは、まだわかっていない部分があるので、現時点ではコメントは控えたいと思います。

【幹事社】 わかりました。

《臨海部ビジョンの実現に向けた海外視察について②》

【幹事社】 今回の海外視察でこういった方にお会いになるのか、実際にお会いになるあちらの首長であるとか、こういった方にお会いになるのか、ご予約決まっていたら教えてください。

【市長】 首長にというよりも、むしろ開発に携わっている責任者でありますとか、そういった要所要所の方たちとのディスカッション、面会というのは計画しております。様々なスタートアップ支援をやっているところだとか、港湾施設から転換しているところだとか、公園緑地みたいなもの、あるいはBRTみたいなものを見てまいりますので、そういったそれぞれの責任者と議論をしてくるということでございます。

《風疹の流行について①》

【幹事社】 続いて一般質問なんですけれども、厚労省が30代から50代の男性の風疹検査を無料でやりますということを決められたんですけれども、市長としてこの政策をどのようにお受け止めか、感想を聞かせてください。

【市長】 やはり厚労省としても非常に深刻に受け止めている結果だと思えます。わずかな期間に、たしか640名を超える方がもう既に罹患しているということでありますから、適切な対応だと思えます。前回の会見でもちょっと言ったんですが、なるべく国も、あるいは私ども自治体も、予防接種というものについて広く呼びかけていくためには、少しインパクトのあるものになったのではないかと評価しています。

【幹事社】 実際に前回の会見で、市長は自分も受けたいとおっしゃっていたんですが、けれども、その後、ご予定いかがでしょう。

【市長】 10月4日、あさってに接種する予定であります。

【幹事社】 ありがとうございます。

《臨海部ビジョンの実現に向けた海外視察について③》

【幹事社】 ちょっと細かいことなんですけれども、海外視察の中にケンブリッジ・イノベーション・センターの視察というのも入っていますが、そうすると、訪問都市としては、正確に言うと、ニューヨーク、ボストンとケンブリッジ市になるんでしょうか。

【市長】 そういうことです。

【幹事社】 ありがとうございます。幹事社からは以上です。各社、質問をお願いします。

【記者】 今回の視察で特に期待している視察場所というのは、どこになりますか。

【市長】 特にというか、僕はこの一つ一つの施設なり拠点なりというのは、臨海部のメンバーともよくよく議論して、そして短い時間でどれだけ凝縮させるかを選んできたところなんです。そういった意味で、ある意味全て重要なところだと認識していますので、密度の高い視察になるなど期待しています。

【記者】 それと、乗る飛行機はビジネスクラスとかファーストクラスとか。

【市長】 私はビジネスということになっていまして、副市長もビジネス、本部長、局長はプレミアムエコノミー、あとはエコノミーというふうに聞いています。

【記者】 今回の6人の中に民間の方は入るんでしょうか。

【市長】 今回は入っておりません。

【記者】 全部、市の職員。

【市長】 はい。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 先ほど、視察で見たいところとしてBRTというお話がありましたけれど

も、川崎市として臨海部にBRTを導入したいというお考えは、今後あり得るのでしょうか。

【市長】 BRTに限らず、やはりこれからのモビリティというものがものすごい勢いで変化していて、各都市で挑戦的な取り組みをしている中の1つの手法だと思っています。当然、臨海部での交通機能をどうしていくかというのは大きな課題でありますので、その可能性の調査という意味での1つです。

【記者】 ありがとうございます。

《風疹の流行について②》

【記者】 先ほどの風疹のお話なんですけれども、今度、予防接種を受けに行かれるということで、前回の会見の時にも言っていたかと思うんですけれども、改めて、同じ世代、市長もその世代だと思うんですけれども、接種率が低い世代に対して、自分が先導して予防接種を受けに行くということで、呼び掛ける言葉ですとか、同じ世代の人に受けに行きましょうというような、そんな言葉を1ついただきたいんですけれども。

【市長】 まず、私もチェックしてみて、自分の年代は受けていない可能性が高い年なんだというのを認識して、みずから母子手帳をチェックして、親にも聞いて、罹患しているかしていないかというのを確認しましたので、その作業をお一人お一人、是非やっていただきたいなと思います。まずそれを是非やっていただいて、心配があれば抗体検査などをしていただきたいなと思っています。特に、妊娠の可能性のある家族の人たちの年代、あるいは周りの人たち、どこにいらっしゃるかわからないので、とにかく全ての人と言いたいわけでありましてけれども、ワクチンを受けていない人たち、あるいは罹患歴がない方にはと思うわけなんですけれども、是非自分事として捉えていただきたいと思います。

《中原区のまちづくりについて》

【記者】 昨日、中原区のまちづくりについての陳情が市議会のほうに上げられましたけれども、改めて、市民団体の方は、マンションを中心としたという考えをとられているみたいなんですけれども。

【市長】 マンションを。

【記者】 マンションを中心としてまちづくりをしていると受け止めていらっしゃるけれども、改めて、市としての中原区のまちづくり、武蔵小杉辺りのまちづくりにつ

いてのお考えをお伺いできますか。

【市長】 武蔵小杉だけということではなくて、川崎市内全域が、住宅に対する需要、特に集合住宅の需要が高いところでありますので、非常に、その需要は旺盛だと思っています。

ですから、その中で、乱開発が進まないようにしていく1つの手法としては、再開発事業というのも活用しているので、そういった意味では、様々な課題はあると思いますが、例えば交通混雑の問題だとか、そういった課題についても、しっかりと対応するようにやっていきたいと思っています。

【記者】 それに関して、特にビル風なんかは数年前から、2015年も市長のほうに要望書を出されているかと思うんですけども、実質的に対策をとったり調査をする予定というのは、今のところはないですか。

【市長】 まず、これも何度かこの会見でも申し上げているんですが、一番風が強いところは、いわゆるビルの構造というものが、風害というか、そういうものに与える構造研究があまりされていなかった当時のビルが最もビル風の影響を受けている。その対症療法はしているんですけども、なかなかそこで大きな改善が見られていないという現状があります。

最近できている高層のものについては、当然構造上もよく計算されていて、アセスの中で風洞調査というものが行われています。そういった中でチェックをされていると認識していますので、今後もそういった法定に示されたものを確実に確認していくことをやっていかないといけないと思っています。

【記者】 ありがとうございます。

《臨海部ビジョンの実現に向けた海外視察について④》

【幹事社】 たびたびで恐縮なんですけれども、先ほど、前回の海外視察、政策的な意味で海外視察をされるのは数年前だったと。何の施設だった……。

【市長】 それは協定の締結というのもあったんですけども、ベトナム、ラオス、タイという視察がございました。年号でいくとですね、大分前の話になるので。

【秘書部長】 後ほど、お伝えします。

【市長】 後ほど。

【幹事社】 はい。やっぱりそうやって直接ご自身が経費をかけて海外に行かれることの意味、これだけ最近では、以前とは違って、80年代と90年代とも違って、インターネットでいろんな情報収集もできる時代だと思います。それでもやっぱりこのタ

イミングでご自身が現場を御覧になりに行かれるというのは、どういう意味があるんだとお考えでしょうか。

【市長】 これは、ある意味、論を待たないような気がしますけれども、例えば記者さんとかが現場で見るとというのは、デスクではなくて現場でというのと同じように、政策をつくっていく、そのためにはどういうものを見てくるか。あるいは、歴史的な経緯みたいなものは文献みたいのを探せば見られるんですが、実際の生の声であったり、その場の状況だったりとか、あるいは何がキーだったのかというのを自分の目で見て、歩いて、現場の人と話してということがやはり大事なかなと思っています。例えばベトナムの話でも、東西回廊がとかという話をしても、何となく、紙面で見ているのと、行って見て、実際のどのぐらいこの開発が進んできていて交通網がどうなっているのか、人の動き、現地で働いている人たちがどうかということも見ないと、あの時も僕はそう感じました。

ですから、今回も臨海部の話が中心になりますけれども、臨海部のみならずのことも期待できるのではないかと思います。

【幹事社】 わかりました。

《川崎フロンターレについて》

【記者】 Jリーグの川崎フロンターレが、今現在首位になったと思うんですけども、改めて所感であったり、あと、もし仮に今シーズンも連覇ということになりましたら、去年のようなパレードだったり、そういったことを行う予定があるのかどうかというのを1つ教えてください。

【市長】 後半戦になって、1位になっているということ自体に、ものすごく喜んでますし、何か状況が昨年に似てきたなということで、2連覇を是非実現していただきたいなと思っています。そうなった時は、もちろんまた市民の皆さんと一緒に大きく盛り上がりたいなと思います。そうなることを期待しています。

《羽田新飛行ルート》

【記者】 ありがとうございます。あともう一点だけ。先日、品川区長選挙が行われまして、その争点が、1つ、羽田の新ルートが、市民が容認するかどうかというところで、結局新ルートを容認する現職が4選を果たして選挙が終わったということなんですけれども、新ルートに関して、川崎も離陸のときに、例えば南風が吹いているときに新ルートを使って、例えば大師線沿線とか、あそこら辺上空を通過して、あそこ

の上空も国の調査によると70から80デシベルぐらいの騒音があるのかというところだと思うんですけども、品川区長選挙で区民がまず羽田の新ルートを容認した。容認したと言うことはちょっと語弊があるかもしれないですけども、民意として、1つ羽田の新ルートが認められたということについての所感と、あと改めて川崎の新ルート、羽田の新ルートで大師線沿線の真上を、ある程度の騒音を持って通るということについての所感というのを教えてもらえますか。

【市長】 品川区長選挙の話は、羽田空港の話が出ていますが、毎回言っているとおり、首長選挙の話というのはワンイシューではないので、トータルとしてのこれまでの区長さんの実績の話だと思いますから、そういった意味で、羽田空港の品川区民の受け止めについてのコメントは特にございませぬ。

一方、川崎市内、大師地区の上空を飛ぶというルートについては、地元の住民の皆さんから、実機を、実際に飛ぶ飛行機と同規模の飛行機を（新ルートの正式決定前に）実際に飛ばしてほしいという要望が出ており、それに伴って、住民の皆さんが求めていることを国に求めていくということにしております。

【記者】 羽田空港は、今、殿町など臨海部の開発に伴って非常に重要な拠点になっていると思うんですけども、市長としては、新ルートでどんどん海外からも旅客並びに訪日観光客が集まってほしいというスタンスでおられますか。

【市長】 まず、国策というか、国としてとても大事だというのは、やはり首都圏の離発着の回数をどれだけ増やせるかというのは、国の成長にとって大変重要なことだと私は思っています。その中で、非常に制約ある中でどれだけ増やしていけるかということなので、そういった意味では、住民の不安を取り除くだけのしっかりとした努力が国にも求められていると思いますし、そのことを私ども自治体としては求めていきたいと思っています。

【記者】 最後に、今回の視察で、先ほど交通網の整備とかも視察してみたいとおっしゃられたと思うんですけども、その中で、空港と都市の関係とか、そういったことも視察する予定の中に入っていたりはするんですか。

【市長】 そもそもボストンとニューヨーク、空港に非常に近接しているところですので、空港への至近という意味では、ニューヨークも、都市の規模としてはちょっと違いますけれども、近接している都市として非常に類似性がある、また、港にもというところで、そういった意味では、参考になるのではないかと考えています。

《川崎駅前での街宣活動について》

【記者】 今週末の7日に、また日本第一党が川崎駅の東口で街宣活動を、瀬戸弘幸氏がまた参加する形で予告しています。6月もそうですし、8月の街宣もそうでしたが、市長も認められているとおり、ヘイトスピーチが繰り返されてきたわけですね。そういう意味では、またヘイトスピーチが駅前で繰り返される可能性が高いわけですが、こういう街宣が繰り返し行われて、この週末に行われることが予告されている、そのことについてどういうふうに受け止めていらっしゃるかというのをちょっと教えてください。

【市長】 ちょっと私自身、7日というのは聞いていたかな、とにかくそういうことは繰り返さない、前回のような不適切な表現、言動が行われないということを望みます。

【記者】 確認ですけれども、その不適切なというのは、それが差別の言動であって、川崎市民を傷つける、そういうものであるから不適切だというご認識でよろしいですか。

【市長】 そうですね。この前、いわゆる本会議でも答弁したとおりです。

【記者】 駅前の街宣については、市が何か許可する、しないとかというところとはかかわっていない部分ではありますけれども、そこに対してなかなか有効な手だてというか、予防の措置というものがとれない現状にあるわけですが、当事者たちに向けて、あるいはそれに触れてしまう可能性のある市民に向けて、改めてメッセージというか、今発信すべきこと、何かございましたら。

【市長】 まず、誰であっても、いつであっても、公に何か自分の主張をするという時に、差別的な、あるいは人を傷つけるようなことがないことを望みます。

【記者】 いかがでしょうか。じゃあ。

【司会】 では、以上をもちまして、市長会見を終了いたします。ありがとうございました。先ほどの海外視察の件は、後ほどまた情報提供させていただきますので、よろしく願いいたします。

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355